

◇ 深 澤 均 君

○議長（高橋 猛君） 最初に、13番、深澤 均君の一般質問を許可いたします。深澤 均君、登壇願います。

（13番 深澤 均君 登壇）

○13番（深澤 均君） 通告に従って質問をいたします。

質問の内容は、今後の除雪のあり方、1つであります。よろしくお願いをいたします。

本町は、平成23年から3年連続の大雪に見舞われました。まずはこの間、町の除排雪作業に寝る間もなくかかわっていただいた各位に敬意と感謝を申し上げるところでございます。

加えて、昨年は大変長く酷暑の夏でありました。そして、ことしの春先の天候不順や7月からの長雨、局地的な集中豪雨など、近年の天候は非常に異常気象が常態化しているように思います。この状況下、ことしの冬の降雪が非常に気になるところでありますが、大雪にならないことを祈るばかりであります。

これまでの3年間の冬を振り返ってみると、毎日毎日降り続く雪に次第に道路除雪が追いつかず、作業のおくれが目立つようでありました。私の住む羽貫谷地集落は千畑地区の端に位置していますが、朝9時、10時でも除雪ローダーがまだ走り回っている状態でありました。しかし、全く除雪されていないわけではありません。早朝、除雪トラックで直線部は除雪されますが、交差点付近は除雪をされないまま、通勤の車が危険を覚悟で交差点に突っ込んだり、立ち往生や、時にはスクールバスの運行にも支障を来している状況であります。

大雪や雪が降り続くと、日々こんな状況で、集落内はもとより、隣の下畑屋部落や他地域の方々からも通勤通学に間に合う道路除雪を望む声を多く聞いてきたところであります。大雪なときほど除雪作業に時間を要することは理解しながらも、大雪なときほど除雪をしっかりしてほしいと望む住民の願いも至極当然であると同時に、地域経済の発展や町民生活の向上を図る上で、十分な対応を講ずることも重要と考えます。

豪雪地域の美郷町はこれまで除雪には大変力を入れてきたところで、周辺自治体の中でも除雪がよい町と評価されているわけですが、今後、降雪期、自動車の交通確保や安全をどのようにして確保していくのかお伺いいたします。

また、作業のおくれの要因の一つに、町民の要望に丁寧に対応してきた結果、作業量の増加が挙げられると思います。今後、高齢者世帯の増加を考えると、さらに要望がふえるものと予想されますが、その一端を各集落で負うことで、町除雪の過度な負担を軽減することも必要ではない

かと思うところであります。

そこで、私の提案ですが、集落営農組織や農業法人等のトラクターによる集落内生活道路の除雪も視野に入れ、将来に向けた除雪計画を検討してみてもと思いますが、いかがでしょうか。このことは集落内の見守りや、自主防災、そして何よりも冬期間の集落住民の安心・安全のよりどころとして有効と思われると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

現在、除雪延長は、車道除雪が478.6キロメートル、歩道除雪が57.1キロメートルで、合わせて535.7キロメートルとなっております。また、そのほかに役場や各行政センター、認定こども園や小中学校の駐車場、加えて集会施設など公共施設の駐車場や消防分署、派出所や特別養護老人ホームなど、多くの駐車場除雪も行っております。

議員もご存じかと思いますが、除雪車の出動基準はおおむね10センチメートルの降雪量を目安としておりますが、降雪の状況によっては随時出動する場合もあるところです。

除雪作業は、通常午前2時に出動し、午前7時ころまでに完了することを目標とし、町臨時職員の直営運転手14名と23社の委託業者が、除雪ドーザー40台、グレーダー4台、ロータリー車9台、トラック7台など、計69台の除雪車両で行っておりますが、さらに六郷地区では3台、千畑地域では1台のハンドガイド式小型除雪機と、黒沢、千屋荒屋敷、土崎上野際など、通常除雪車の作業が難しい狭隘な路線では、トラクター3台を借り上げ、町としては細かい配慮を行いつつ、住民に評価される除雪を目指して最大限頑張っているところです。

しかしながら、降雪量によっては議員ご指摘のように、目標とする午前7時ころまでに作業を完了できないことがあり、ご迷惑をおかけした日もありましたが、大きな混乱を来す一般車両の交差点での立ち往生やスクールバス運行の大幅なおくれなどは報告されておられませんので、改めてご理解をお願いいたします。

今後の除雪体制についてですが、地方交付税の一本算定を見据え、より効率的な除雪体制を構築するために、かねてより除雪計画の再検討、つまりは見直しに着手してきております。

その中では、改めて既存の除雪路線が冬季交通の確保上、必要不可欠な路線かどうかを検証し、場合によっては路線見直しを断行するとともに、除雪体制についても町直営の体制と業者委託の体制が地域間差異のある現状を踏まえ、直営、委託のバランスなどについて再検討すること

としております。

また、こうした一連の作業の中で、現在トラクター等で除雪を実施している路線についても、作業効率や安全性、経済性や有効性を検証しながら、再検討してまいりたいと考えております。

なお、こうした除雪計画の再検討は、現在作業中の状況ですので、再検討に基づく具体対応は来期以降からとなります。今期については暫定的な対応として、千畑地区に直営体制2名、六郷地区に直営体制1名の増員を図るため、臨時職員を募集することを既に決定しており、こうした体制で適切な除雪実施並びに安全確保に努めてまいりたいと存じます。

また、集落営農組織や農業法人等へのトラクター除雪の委託については、先ほど述べましたとおり、現状のトラクター等での除雪についても再検討する意向ですので、そうした見直し作業の後でなければ、新たな委託については議論できません。そのため、現段階では議員からのご提案として受けとめさせていただきたいと存じます。

なお、高齢者世帯については、道路から玄関までの間についてですが、軽度作業について支援の制度を既に実施しており、たくさんの方からご利用いただいていることもご理解をいただきたいと存じます。以上です。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。13番、深澤 均君の再質問を許可いたします。

○13番（深澤 均君） 今町長の答弁では、経済的な側面も触れられましたけれども、当然路線の見直しということで、除雪車の負担を軽減していくというところかと思えますけれども、その際にも、ぜひとも集落内の理解を得た上で路線の見直し等を行っていただきたい。一方的な路線の見直し等は避けていただきたいというふうに思っております。

また、集落内の、私は先ほど、これから見直しを予想するのにとというふうな形で、生活道路等の狭いとか、行きどまりとかというようなところを、今町の除雪車がやっている部分がございますけれども、そういう部分もやはり集落内で行う方向で検討したらいいのではないかとというふうな趣旨で述べましたけれども、全国の自治体の中には、一定経費をその集落に渡して、その除雪をやってもらっているというような例もあったようであります。

私は、防災とかそういう関係でいろんな業者と、いろんな団体と協力協定みたいなものを結んでいるわけですが、特にこの地域の除雪というのは、そういう部分もちょっとかみ合わせた形で考えていくべきではないのかなと。ある一定水準、町で豪雪対策本部等を設けるには、降雪120センチ以上とかなんとかありますけれども、それを超えて町の除雪車が過度な負担に陥るような場合に、そういう地域の持っている力もかりるとか、そういうふうな方向で今後検討できないもの

かなというふうな感じでお話をしたところであります。

できれば、今軽度生活支援とかで高齢者のお宅はやれているというお話でもございましたけれども、中には、その作業をするにもかなりの長距離の部分で、役割を負った支援員がやるわけですが、効率がやはり悪いのではないかなと。軽トラックに乗って除雪機を載せてきておろして除雪をしたり、またはその人もなかなか長続きしないでまた別の人にかわってしまうとか、現状はそのような形であるようでありますので、どうか地域のやはり見守りも含めた形でこれから検討が必要ではないかと思っておりますけれども、その辺について再度ご答弁がありましたらお願いいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） ただいまの再質問にお答えいたします。

除雪路線の見直しについては、これまでの一部区間について見直しを実施してきた経緯があります。その際、関連する集落等に事前にお話をさせてもらった上で実施をしておりますので、当然見直しに当たっては、見直しに伴う路線の見直しについては、議員がおっしゃったように、また美郷町がこれまで実施してきたように実施することを考えています。

それから、高齢者世帯についての配慮については、これまでも福祉政策の一環として実施してきておりますが、町の除雪政策と、また福祉政策が一定であるように見えて別物でありますので、まずは不特定多数の方が一定時間内で円滑に冬期間交通できるようにするのが除雪政策の根幹でございますので、その点をご理解いただきたいと思います。

○議長（高橋 猛君） よろしいですか。（「はい」の声あり）

これで、13番、深澤 均君の一般質問を終わります。